浄青神奈川

大本山光明寺御法主 藤吉慈海台下御染筆

神奈川浄青機関紙
第 13 号
発 行 日
昭 和 61 年 10 月 1 日
発 行 所
鎌倉市材木座 6 －17－19
光明寺中神奈川教務所内
浄土宗神奈川教区青年会
発 行 人
戸 松 秀 明
編集委員会
森本祐康　宮林雄彦
西井久雄　永原道雄
吉水智栄　杉田俊一

浄土宗第三祖
光明寺御開山

記主良忠上人七百回遠忌

音 楽 法 要 厳 修

昭和61年5月4日
鎌倉大本山光明寺

浄土宗神奈川教区青年会

たゆまざる求道と念仏

神浄青会長　戸松秀明

　先般の神浄青定例総会において、第六代会長に推薦され就任する運びとなりました。第四代里見会長、第五代野中会長のもと副会長をさせて頂き、多少なりとも組織運営のノウハウを学ばせて頂いたつもりでおりましたが、実際に会長になってみますと、己の浅学非才、その器でないことをつくづく痛感する次第です。

　歴代会長諸師は、本会の目的であります会員相互の友情を深め、青年宗徒としての修練と教化に励み、宗門の興隆に寄与すべく様々な事業に取り組まれました。〈化他〉・〈自行〉・〈和合〉の三本柱がそれです。我々は、浄青の会員であると同時に、浄土宗の宗侶です。法然上人の御教えである本願称名の念仏によって、悩み苦しむ人々を、希望に満ちた喜びの生活に導かねばならないのです。それには、人々を導くことの出来るだけの、たゆまざる求導と念仏に対する信念が必要です。一人の力には限度がありますが、同行同信が手を握り、力を合わせるとき大きな力が生み出されます。〈化他〉を行なうには〈自行〉が必要であり、〈自行〉を行なうことが〈化他〉へつながります。〈和合〉があってこそ大きな成果をもたらせます。この三本柱は、浄青活動が続く限り取り組む課題であります。

　現在、里見師を理事長とする全浄青の三期にわたる「青年に念仏を」―さまざまな地域と機根をみつめて―というテーマは、「浄青に念仏を」―さまざまな地域と機根をみつめて―そのものと思います。会員の沢山いる浄青、年齢制限をすると極端に会員の減る浄青。真剣に道を求めている会員、いつまでも宗侶の自覚の持てない会員。こうしたなか浄青の活動はなされているのです。

　先年、神浄青で林霊法台下をお招きし、布教研修会を開催致しました。「法然上人のご生誕に学ぶ」―人間には三つの誕生がある―と題して講演され、「私達が布教する場合、布教者自信が救われていなければ相手を救う事は不可能である。若い時に縁を結び、信仰を確立してゆかなければならない。自信教人信である。」また、「我々は何を求めに生まれて来たのか。それは大往生小往生という精神的な大きな宝を求めに生まれて来た。難しい問題ではあるが、生涯をかけて死ぬまでに回心を全うする事、それが本当にこの世の中に生まれて僧侶になった事の意味である。」と熱っぽくお話して下さいました。これは、微温湯に漬っている自分に、冷水を嫌という程浴びせられた思いでいっぱいでした。

　お念仏を真剣に称えようではありませんか。そして、御仏の御心に叶うように生きてゆこうではありませんか。そのことが今、我々にとって一番尊いことであり、総ての出発点ではないでしょうか。

　諸大徳、会員諸師の御指導、御協力を切にお願いする次第です。

合掌

昭和61年度　神浄青役員名簿

会長		戸松秀明	京浜	理事	古庄良源
副会長	常理事	野呂幸忍	港北	理事	横井隆彦
〃	常理事	鳥居真理	港南	常理事	伊藤彰哲
事務局長		北郡賢雄	高座	常理事	安藤昌信
会計		皆川明演	〃	理事	大谷正通
〃		日比野隆道	三浦	常理事	鳥居一仁
書記		宮林雄彦	〃	理事	畑尾敬信
編集		森本祐康	鎌倉	理事	国松俊康
〃	常理事	西井久雄	中郡	常理事	一　真光
〃		吉水智栄	〃	理事	池田正道
〃		杉田俊一	小田原	常理事	長谷川光順
〃	理事	永原道雄	〃	理事	阿川文叡
監事		野中岳道			
〃		里見嘉嗣			

記主良忠上人七百回遠忌
「音楽法要」厳修

実行委員長　野中岳道

昭和六一年五月四日から七日までの期間、大本山鎌倉光明寺で厳修された良忠上人七〇〇回遠忌法要に神奈川浄青も独自の企画で法要に参加させていただき、大変好評を受け成功裡に法要を厳修できたこと、皆様方に御礼申し上げます。

さて、この法要の企画は、大本山光明寺からの要請を受け、我々青年僧が主体となって独自の法要を模索しながら、過去二回私共の手で厳修された音楽法要を母体に、強烈な響きのシンセサイザーの法要参加、そして光明寺十夜引声の聲明ならびに古典的な雅楽と舞楽の奉納と欲張りすぎた内容を企画いたしました。

この音楽法要の企画にあたり、前神浄青会長の里見上人や神浄青役員によるシンセサイザーの参加法要の善光寺までの視察旅行、光明寺雅楽会と大本山増上寺雅楽会の合同練習また港南浄青和訳の経文に増田晃久先生が作曲されたものを村井氏によるピアノでの指導等、大変忙しい日日をおくりました。そして、聲明は山崎弁阿上人にお願いし、舞楽の舞人は港北組の横井隆彦君に「蘭陵王」を舞っていただき、シンセサイザーの演奏者は港南組塩沢智彦君の知人の佐藤謙司氏に依頼しました。このような内容をもって二回の合同練習を経ていよいよ五月四日の当日をむかえました。

当日午後三時、大本山光明寺大殿は大勢の参拝者におおわれました。各地からの団体参拝の方々、またポスターや三大新聞の折り込み広告で知った若い聴衆で大殿は埋まりこれから何が始まろうとしているのか戸惑いを持った感さえ見受けられました。小田原組の石川邦雄上人の司会の声にいよいよ音楽法要が始まりました。壮大なるシンセサイザーの響きが大殿を包み、「いまささぐ」のメロディーにかわいいお稚児が阿弥陀様、良忠上人に献灯、献華、献香して聲明にうつりました。幻想的なイメージを持った阿弥陀経は波の音を旋律とし、波が押寄せ、引く音を思思わせます。次に雅楽の優雅な響きに合わせ、舞楽が奉納されました。美しく着飾り、いかめしい仮面をつけた「蘭陵王」の舞いに大勢の参拝者は目が釘づけになりました。

このようにして私達の「音楽法要」は無事成満いたしました。大勢の老若男女の参拝者に「良忠上人七〇〇回遠忌」をとおして私共の阿弥陀様に対する意気込みを感じていただけたら幸いだと思います。

また、大本山光明寺をはじめ増上寺雅楽会の皆様、先輩諸師の方々、神浄青会員の皆様に心より御礼申し上げます。

法要次第

入　堂

音楽法要
一、いまささぐ
二、奉請

聲　明
三、甲念仏
四、仏説阿弥陀経
五、回向文

舞　楽
六、蘭陵王

音楽法要
七、摂益文
八、念仏一会
九、四弘誓願

退　堂

イ　音楽法要

音楽法要のうち「いまささぐ」は仏教聖歌といわれる。この曲にのせて神浄青子弟が献灯・献華・献香をおこなう。「奉請」「摂益文」「念仏一会」「四弘誓願」は港南組浄青訳詞増田晃久作曲である。

ロ　シンセサイザー

シンセサイザーとは音を合成する楽器で、電子回路によって音を合成し多様な音を出す。奏者佐藤謙司氏は現在第一線で活躍中。

ハ　雅　楽

雅楽は古代中国に発祥、仏教伝来とともに日本に伝わる。日本古来神楽、田舞などを同化してきた伝統音楽である。

ニ　舞　楽

舞楽とは管弦の演奏に舞が加わるのをいう。舞楽にはインド、中国より伝来した左舞と、朝鮮からの右舞がある。今回の蘭陵王の舞は左舞一人舞である。

ホ　蘭陵王

北斉の蘭陵王長恭は容姿が美しかったので、常にいかめしい仮面をつけて戦に臨み、周の大軍を破った故事により作られたといわれている。

ヘ　引声法要

「甲念佛」「佛説阿弥陀経」「回向文」は引声法要（聲明）と呼ばれるもので、慈覚大師円仁が中国より持ち帰り、後土御門天皇が明応四年（一四九五年）鎌倉光明寺の祐崇上人に下賜されたものである。

百回遠忌音楽法要

昭和61年
5月4日

4月18日　リハーサル
会員舞人、シンセサイザー奏者
佐藤氏と打ち合わせ

光明寺をひっくり返す程の大音響が、参詣人いや出演者をも驚かせた。暗闇に仕立てられた本堂内で、開式早々にシンセサイザーが鳴り渡ったからだ。これと男声合唱さらに古典の舞楽を組み合わせて、神浄青独自の音楽法要が開始されていく。

当会々員であり、かつ増上寺で雅楽を習得中の小生が、舞人を仰せつかった。経験上から聲明等との連係は、直ちに把握出来るが、電子り音楽と真正面から正直に立ち向うしか方法はない。こうした気構えの中、十五分程の舞いは、あっという間に感じた。光明寺、増上寺両雅楽会の調和のとれた演奏に助けられ無事終了出来たのである。

「陵王」

横井隆彦

この日に至るには、周到な準備がなされた。何度も行ったリハーサル。そして、鎌倉方の増上寺に出向しての稽古。目標に向けて進む姿は、熱気に溢れていた。

当日朝7時集合
実行委員長より
「ヨロシク オネガイシマース」

浄青会員子弟)
献華　献香

佐藤氏オリジナルの
入堂音楽演奏

荷物搬入
「ヨイショ、オモイナー」

浄土宗第三祖 光明寺御開山 記主良忠上人七

音楽法要後
楽器資材を片づける会員

舞楽「蘭

なると未知数だけに戸惑いがある。しかし、事はおかまいなく進行していく。

出番が来た。聞きなれた笛の独奏曲。太く量感溢れる音色を頭に叩き込む。自分自身を鼓舞する為に序曲で乗ってしまう訳だ。張りのある白いひげ、すっと高い鼻、頂に竜を従えた金色の面。これから、蘭陵王という王に生命を吹き込むのだ。形態の美を謳う舞楽を堂々と行うには、

蘭陵王を舞う
横井隆彦師

舞人

は、この音楽法要がどのように映っただろう。視聴覚に訴えるこの手のものは、力で迫るのも大事だが、それ以上に人間の力による声、息、動作がなにより重要であろう。五感に無理なく受け入れられるからだ。

今回の法要で、一時でも心を動かせてもらえたならば、演者として望外の喜びである。

光明寺、増上寺雅楽会に
による舞楽演奏

会員による音楽法要
（声　明）

お雅子さん（浄
による献灯

浄土宗第三祖
光明寺御開山

記主良忠上人七百回遠忌音楽法要

昭和6
5月4

音楽法要後
楽器資材を片づける会員

4月18日　リハーサル
会員舞人、シンセサイザー
佐藤氏と打ち合わせ

舞楽「蘭陵王」

舞人　横井隆彦

光明寺をひっくり返す程の大音響が、参詣人いや出演者をも驚かせた。暗闇に仕立てられた本堂内で、開式早々にシンセサイザーが鳴り渡ったからだ。これと男声合唱さらに古典の舞楽を組み合わせて、神浄青独自の音楽法要が開始されていく。

当会々員であり、かつ増上寺で雅楽を習得中の小生が、舞人を仰せつかった。経験上から聲明等との連係は、直ちに把握出来るが、電子の音楽となると未知数だけに戸惑いがある。しかし、事はおかまいなく進行していく。

出番が来た。聞きなれた笛の独奏曲。太く量感溢れる音色を頭に叩き込む。自分自身を鼓舞する為に序曲で乗ってしまう訳だ。張りのある白いひげ、すっと高い鼻、頂に竜を従えた金色の面。これから、蘭陵王という王に生命を吹き込むのだ。形態の美を謳う舞楽を堂々と行うには、真正面から正直に立ち向うしか方法はない。こうした気構えの中、十五分程の舞いは、あっという間に感じた。光明寺、増上寺両雅楽会の調和のとれた演奏に助けられ無事終了出来たのである。

この日に至るには、周到な準備がなされた。何度も行ったリハーサル。そして、鎌倉方の増上寺に出向しての稽古。目標に向けて進む姿は、熱気に溢れていた。

当日の参詣者には、この音楽法要がどのように映っただろう。視聴覚に訴えるこの手のものは、力で迫るのも大事だが、それ以上に人間の力による声、息、動作がなにより重要であろう。五感に無理なく受け入れられるからだ。

今回の法要で、一時でも心を動かせてもらえたならば、演者として望外の喜びである。

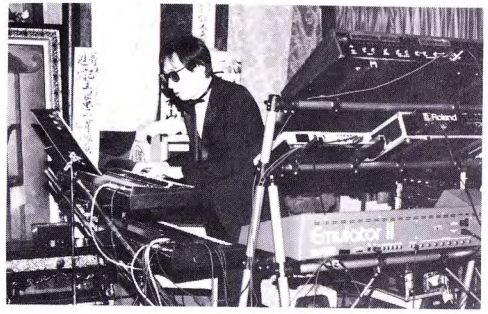
蘭陵王を舞う
横井隆彦師

当日朝7時集合
実行委員長より
「ヨロシク オネガイシ

光明寺、増上寺雅楽会に
よる舞楽演奏

会員による音楽法要
（声　明）

お雅子さん（浄青会員子弟）
による献灯　献華　献香



佐藤氏オリジナルの
入堂音楽演奏

荷物搬入
「ヨイショ、オモイ

全浄青の状況

第十六回中央研修会報告を中心として

伊藤彰哲

第十六回全浄中央研修会は、北陸ブロック担当のもとに、去る八月二十八日・二十九日の両日、石川県山代温泉に於て開催され、二百五十余名の参加者（因に、神奈川浄青は二十四名の参加）を得て盛況裡に円成致しました。

今回は、里見理事長二期目の中央研修会ということで、従来のテーマ「青年に念仏を」に、新たに―結集・そして更なる飛躍―というサブテーマを設け、内容も、来る十一月二十九日・三十日に開催予定の代表者研修会（僧俗一体の全国在家青年の集い）にねらいを絞ったものでした。

従って、在家青年との集いを持つ為の準備として、教学面での宗義の基本的理解の確認と整理。現代青年の宗教回帰現象（新宗教・新々宗教に集う青年達）の動向把握と現状分析。の二点を取り上げ、研修会の中心としました。

その様な理由から、大正大学講師広川堯敏先生には「廃仏毀釈と仏教」と題し、宗義及び、現代を廃仏毀釈の時代ととらえるところに我々の求道の出発点があるのではないか、といった観点から講演戴き、元毎日新聞記者佐藤健氏には「新聞記者が見た仏教」―若者を中心として―と題して、自から剃髪出家した体験を通して見た仏教について、或は、本年一月、毎日新聞が行った宗教に関する世論調査をもとに、現代人と宗教をジャーナリストの目で語り、今、宗教に何が求められているかを講演載きました。

特に、佐藤健氏の講演の中で、「これからの僧侶は、お経以外に一芸に秀でなければならない。戒を持ち、どこか捨て、いる部分がなければなけない。」との指摘には目を醒させられる思いでした。

尚、全浄青の最近の動向としては、昨年二月増上寺で開催した代表研修会の討議内容を踏まえ、救済委員会を設置し、即応体制、基金の確保・救援の範囲等を含めた規則の見直しを検討し、救済活動の拡充を計っています。

第十四回関ブロ総会、研修会報告

六月九、十日、群馬県水上温泉に、関東各地より百数十名が参加し、「今いじめを考える」のテーマのもと、総会、研修会が開催された。

以下「浄青おだわら」抜粋　北邨賢雄

〝今いじめを考える〟十七人の中学三年生を立ち直らせたものは何か？

このリンチ殺人事件は昭和五十七年八月二十四日、九州大分の保戸島で起きた。いかつい体をした中学三年生十七人が、ひ弱な下級生、江口君を集団で殴り殺したのだ。

事件の背景にはこの島特有の事情がある。遠洋漁業で生きる保戸島では、中学校を卒業すればみんな船に乗る。マグロ船で景気がよいから、親は期待がある。そんな訳で中学三年生は酒、タバコ、女と何をやっても構わない。父親は船に乗って留守だから、母親も見て見ぬ振り。徹夜で酒盛りをして、昼間学校で寝る、という具合だ。

殺人事件で島は大騒ぎとなった。「人殺し！」の罵声と石の雨が十七人の殺人中学生の家を襲った。今度は自分たちが殺されると恐れ脅え、食物は何日も喉を通らない。米さえ売ってくれない村八分の極限状態。ついに中学生の母親たちが最後の頼みと、寺へ助けを求めてきた。寺の本堂にうごめく彼らの顔は、憔悴した亡者の形相であった。

寺の住職自身も恐ろしかったが、腹を決めた。いま、島民の手で彼らは罰を受けている。しかし、この中学生たちの将来はどうなるのだ。仏の力にすがって、今こそ彼らを地獄の底から救わなければならない。

「江口、許してくれ！」位牌に向かって泣き叫ぶ。「江口、仏になってくれよ！」

とりつかれた霊を恐れた。心から詫び、懺悔し、成仏を祈ることで、彼らに落ち着きが見えてきたのだった。

更に、彼らを信仰の道へと導いたのは、宇佐の善光寺での修業生活である。九月十三日、特別課外授業の許可を得て、お勤め、写経、掃除、講話、特に光明会の礼拝儀は心に響いた。真剣な彼らは、更生を通り越して回心に至ってしまったのだ。本当の自己に目覚めたのだ。佐世保少年院で十七人は皆模範生だった。半年の刑期がわずか二か月余で許され島へ帰された。現在彼らは数珠と経本を手に、遠洋漁業の船で頑張っているという。

第九回 花まつり愛のプレゼント

恒例の花まつり愛のプレゼントが四月十九日金沢母子寮に於いて、会員二十数名の参加により行なわれました。

当日はあいにくの雨、あの長い階段を雨具を付けてのプレゼントの搬入は大変でしたが、子供達のお手伝いに会員みな疲れも忘れ頑張りました。催し物も、手品や合唱等約二時間、短い時間ではありましたが心の交流を深めてまいりました。又、四月二十六日には、小田原組を中心に小田原光海学園に於いて愛のプレゼントが行なわれ、ギター演奏、合唱等とたのしいひと時を過しました。

尚プレゼント品をお寄せ戴いた会員の皆様に心よりお礼申し上げます。

真剣に紙芝居を見る子供達

十夜法要念仏行進

十月十四日大本山光明寺に於いて十夜法要が営まれ、神浄青会員も例年通り念仏行進を行った。本年度は折悪く雨模様であったが、念仏行者十数名の声高らかに、鎌倉駅までの道のりを元気に行進した。

行進中悪天候のため、恒例の駅前伝道は断念せざるを得なかったが、一人の落伍者も出ず、また街中での温いお念仏の声に励まされながら、無事満行した。その後、光明寺御本尊前に於いて報告法要を行い、十夜法要に参加させて頂いた。

悪天候にもかかわらず、多くの皆様の御支援に感謝しつつ明年度会員諸師の積極的参加を期待いたします。

光明寺門前を歩く

第三回 神浄青ソフトボール大会

十月二十四日好天に恵まれた横浜三ッ沢競技場グランドに於いて第3回神浄青ソフトボール大会が開催された。

約四十数名の会員の参加のもとに鎌倉・三浦・高座、京浜・港北・中郡、港南・小田原と三連合チームが編成され、それぞれに教区長杯を目指し激戦が展開された。今回の優勝は京浜・港北・中郡連合チーム。昨年同様二年続けての優勝であった。

本年は十月九日、保土ヶ谷球場にてソフトボール大会が行われるが、京浜・港北・中郡連合チームの三連勝なるか、はた又、他チームがその連勝を阻止するか。たのしみな試合となるであろう。

円　陣　！　？

第三回 関ブロソフトボール大会

十月三十日茨城県勝田運動公園に於いて第三回関東ブロックソフトボール大会が開催された。我が神浄青チームは、精鋭十六名を送り込み、終日好プレー（珍プレー）が続出した。神浄青チームは、予想通り（？）その実力をいかんなく発揮し、決勝戦へと駒を進めたが、前年度優勝チームで第一回大会では、決勝で破っている、開催県茨浄青チームと対戦した。試合は、一点を争う攻防を繰り返す正に決勝戦にふさわしい好ゲームであったが、惜しくも破れ準優勝に甘じなければならなかった。

次回は、神奈川開催でもあり、ぜひとも優勝を目指して行きたい。

準優勝杯を受け取る会長

第四回関東ブロックソフトボール大会ご案内

昭和六十一年十月二十日(月)～二十一日(火)に左記の日程により保土ヶ谷グランドにて開催されますので神浄青会員の多数のご参加ご協力をお願いいたします。(神浄青は2チーム出す予定です)

◇日　程◇

二十日●午後六時懇親会
　ホテルサンルート横浜にて
二十一日●午前八時三十分開会式他
　保土ヶ谷グランドにて
　午前九時プレーボール

◇参加費◇

懇親会●宿泊……一一、八〇〇円
大会当日参加者……二、〇〇〇円
●参加希望者は各組々長がまとめて神浄青事務局北邨師へ連絡して下さい。

他宗見学
日程その他ご案内

今回の他宗見学は、大本山光明寺に伝わる引声法要のルーツを辿って京都真如堂の引声阿弥陀経会の見学を中心に実施いたします。

日時　十月十五日・十六日(一泊)
場所　京都真如堂(天台宗)

☆日程表

十五日・午後四時　和順会館集合
〃　夕食　和順会館宿泊
十六日・午前六時　知恩院　勤行
七時半　和順会館朝食
八時　〃　出発
　法然院　徒歩
十時　真如堂　法要
十二時　永観堂　昼食
午後十四時　御所　見学
十六時　京都駅　解散

予備研修会

イ、日時　九月三十日(火)午後二時
会場　大本山光明寺
講師　山崎弁阿上人
内容　引声法要について
ロ、日時　十月三日(金)午後四時
会場　大本山光明寺
講師　木内堯央上人(天台宗)
内容　天台宗からみた引声念仏

総会報告

四月十九日(土)大本山光明寺に於いて、神奈川教区浄土宗青年会定例総会が開催され、議長に港南組香川隆敬師を選出して次の議案を審議した。

一、昭和六十年度事業報告承認の件
二、昭和六十年度収支決算報告承認の件
　イ、一般会計決算報告
　ロ、特別会計決算報告
　会計監査報告
三、役員任期改選について
四、神浄青会則の変更について
五、音楽法要について
六、その他

以上の議案について審議された。役員改選は理事会で選出された会長戸松師以下、副会長、監事が承認された。また会則変更については、第六条第六項の「編集三名」を「若干名」と変更され、又第五条の「四〇歳まで」の会員資格を四十三歳の全浄青年令と統一すべきと提案されたが、神浄青発足以来の課題だとして臨時総会を持つことにした。最後に加行成満者の方々に、大本山光明寺御法主御染筆の色紙を贈呈し成満を祝し閉会となった。

臨時総会報告

五月三十一日(土)大本山光明寺に於いて神浄青臨時総会が開催された。戸松新会長、光明寺北邨執事長の挨拶につづき、議長には港南組伊藤彰哲師が選出され、次の議題が討議された。

一、昭和六十一年度事業計画案
二、昭和六十一年度予算案
三、会則変更について
四、その他

活発な議論が交わされ、六十一年度の方針が決定された。総会からの懸案であった会則変更について、第五条資格は「四十才まで」が「四十三才まで」とされ、全浄青との統一がなされた。

六十年度伝宗伝戒成満者

京浜組　正行寺　白石隆弘
港南組　西林寺　渋谷聡明
〃　願行寺　井上俊道
〃　西立寺　山沢敦浩
〃　〃　山沢常浩
高座組　善教寺　井上祥倫
鎌倉組　千光寺　小野正彦
三浦組　法蔵院　余郷有総
〃　天養院　吉水祥史
小田原組　本誓寺　成田光弥

編集後記

初めての編集、大変でした。今までの諸先輩方の御苦労に感謝致します。しかしながら、こうして苦労した後のビールのうまさは最高です。

一日でも早く、新入会員にうまいビールを飲んでもらいたいと深く念じ、私はまずいビールで我慢したいと思うので有ります。(D・N)

浄青神奈川のさらなる飛躍を願い、願わくは、この機関紙が広く社会の人々に読まれることを。(陰謀で、編集委員になってしまった。)(Y・M敬白)